

第1回災害時ネットワーク交流会プログラム

開催)2024年10月30日(水)17時30分～

時 間	プログラム内容
17:20～	入室受付開始
17:30～17:40	開会のあいさつ
17:40～18:00	日本訪問看護財団のこれまでの災害支援の状況報告 災害時ネットワークの概要
18:00～18:20	能登半島地震の発生から現在までの経過報告 ①石川県看護協会ナースセンター 上野谷 優子 氏 ②中能登訪問看護ステーション 中村 志帆 氏
18:20～18:30	質疑応答
18:30～18:35	閉会の挨拶

第1回災害時ネットワーク交流会の報告

開催)2024年10月30日17時30分～

日本訪問看護財団の災害支援について

日本訪問看護財団 事業部部長 高橋 洋子

- ・これまでの財団の災害支援としては、1. 訪問看護ステーションへの義援金募集、2. 被災地及び周辺地域の訪問看護に関する情報を得て厚生労働省等への情報提供、3. 厚生労働省の被災地への対策(特に訪問看護関係)についてHP 上で周知
- 4. 被災地への職員等派遣(東日本大地震)⇒ 訪問看護ニーズ調査等、5. 販売物の無償提供
- ・2011年東日本大震災、COVID-19感染拡大時、2024年能登半島地震で別途支援してきた

<講演> 能登半島地震における石川県訪問看護ステーション連絡会の後方支援の実際

石川県看護協会ナースセンター 上野谷 優子 氏

- ・平時は、訪問看護ステーション連絡会を4地区で分け活動
- ・グループラインにて日頃から情報共有
- ・日頃から昼休憩時に各地区リーダーとオンラインミーティングを実施
- ・地震発生時の活動について、連絡会事務局・被災地・県内被災地以外に分けて、時系列に整理
- ・事務局が行った情報収集とその活用について共有
- ・能登地区豪雨災害時の際の対応について報告
- ・予備電池は、訪問看護ステーション単体の場合は準備をしている所は少ないが今回の災害を経験して必要性を実感したことを報告

<講演> 発災後の訪問看護活動について

中能登訪問看護ステーション 中村 志帆 氏

- ・野菜が手に入りにくい状況だったため、サラダやカットフルーツ、温かい総菜が特に助かった等と現地の体験を情報共有
- ・災害時に役立った取組みについて、物管理・多職種連携・訓練の観点から情報共有
- ・石川県訪問看護ステーション連絡会からの支援で良かったことを具体的に情報提供
- ・令和4年から委託を受け実施しているあじさい会(中能登町在宅医療介護連携推進事業)を通して、住民の声を行政に伝え、対応された事例を紹介
- ・避難所で声を出せない人の代弁をすること等、訪問看護師としての役割を共有

アンケート結果 (「交流会で参考になったこと」より一部抜粋)

- ・ステーションや他事業所との顔の見える関係が日頃からできていることで、緊急時にも速やかに協力体制ができることを学びました
- ・災害に備えて何を準備すべきか、地域単位で考える準備についてとても参考になりました
- ・実際に起こった災害時の動きを聞く事が出来とても参考に成りました
- ・BCP制作の上での見直しになりました
- ・助かった物資や避難所支援が必要なこと伺い、今後の対策に生かせそうです

質疑応答・意見交換

Q)ST連絡協議会の加盟率向上の工夫について

- ・県内で新たにSTが立ち上がる際には、連絡を取り入会のメリットを説明し、入会を促している。会費が不要であることも入会促進につながっていると思われる
- ・ACPやBCPのコアメンバーでワーキング委員会を設置し、事例集等を作成して県内のSTへ共有している

Q)避難所で訪問看護が必要になった場合に係る行政との契約や訪問看護指示書について

- ・日頃から行政の担当者や医師との関係性を築いていたので、すぐに連絡を取り、対応してもらうことができた。避難所での訪問看護も事前の契約をもとに有償で行い、医師もかかりつけ医ではなくても指示書を書いたり、往診に来てくれた

Q)ST内の連絡は何を使っていますか

- コミュニケーションツールはメディカルケアステーションを使用している